

# No.96 湯村 光 「黒い柱」

Hikaru Yumura

北川フラムさんのコラム / 1997 (平成9) 年9月1日付 立川市市報記事より

湯村光の作品は石を3段に切ってあって、普通の彫刻に比べれば不思議な感じがするが、そのかたちが逆に緊張を生んで気持ちよい。

石にはその組成からくる石の原型とでもいう魂があるが、それがうまく見つけられなければ、それはただの路傍の石であり、でくのぼうの石になる。古来人間たちはその路傍の石をみがき宝物にし、それらの石で建築物をつくってきた。もっと昔に遡れば、石器が人間の文化の始めだった。

人間の文明が進んで、いろいろな材料が建築や美術に使われるようになったが、石は以前にもまして重要な働きを持つようになった。石は今後も大切な人間の友だちだと思う。